

【別冊】

令和3年度  
社会福祉法人白日会事業報告

社会福祉法人白日会

## 目 次

1	令和3年度 事業報告総括	1
2	令和3年度たんぽぽ保育園事業報告	2
3	令和3年度特別養護老人ホーム照古苑事業報告	6
4	令和3年度地域密着型介護老人福祉施設照古苑ひまわりホーム事業報告	13
5	令和3年度宇土市地域包括支援センター事業報告	20
6	資料編	34
	(1) 地域における公益的取組	34
	(2) 利用者の状況	34
	(3) 資金収支状況	39
	(4) 積立資産状況	44

## 令和3年度 事業報告

### 総括

第1期中長期経営計画の初年度として、令和3年度の事業運営計画が法人の規範として定着できる重要な1年でありました。事業運営会議の席上、この事業運営計画が業務遂行における指針であることを何度も発言してまいりました。少しずつではありますが、浸透してきているように思います。

コロナ禍も3年目に入り、ワクチンも3回接種が済んだ状況の中、オミクロン株の感染力の強さによって、子どもの感染や保育所等のコロナ感染による閉鎖などにより職員の自宅待機者が出る状況もありましたが、入所者の感染は未然に防ぐことができました。

経営面においては、令和2年度末までに照古苑介護職員が多数退職したことによる職員不足を招き配置職員を確保するため、やむなくショートステイ（短期入所）の受入れ人数を制限し、定員20人を半分にして事業継続を行いました。その結果、ショートステイの介護保険事業収入は前年度から半減し、赤字の要因となりました。

また、照古苑居宅介護支援事業所が、ケアマネージ「わかば」との経営統合により職員体制も5人から8人に増え、着実に収入増加に寄与しています。統合初年度は、訪問用自動車3台、業務用パソコン3台など初期費用を要しましたが、次年度以降は安定的な経営が期待できるようになりました。

事業面においては、感染防止対策の徹底を図り、新しい生活様式を実践してまいりました。リモート面会の導入、PCR検査、抗原検査の実施など最大限の取組を引き続き行ってまいります。

五色山学童クラブ施設は学童保育に加え、園児の各種行事に活用していました。手狭なため卒園児の入学までの居場所に苦労していましたが、今回、五色山学童クラブ施設増築が完了しましたので、卒園児の入学までの期間を安心して見守ることができるようになりました。

地域への公益的取組については、コロナ禍により「ひまわりカフェ（認知症カフェ）」は2年続けて開催できませんでした。生計困難者レスキュー事業は、コロナ禍による国の支援・支給金により相談者は2年連続でピーク時を大きく下回りました。

人材確保については、求人用パンフレットを作成し、県社協主催の福祉のお仕事就職相談会や熊本市及び県南の高校等への求人活動を展開しました。令和4年度新規採用として3人の介護職員が確保できました。

しかし、外国人技能実習生はベトナムから5人を確保していますが、コロナ禍による入国制限により今年度予定していた2人の入国は実現できませんでした。早い入国制限の緩和を期待しています。

最後に、コロナ禍の中でも感染予防対策を徹底し、施設から一人の陽性者も出さないよう取り組んでまいります。

## 令和3年度たんぽぽ保育園事業報告

### 課題解決に向けた取組

#### (1) 心豊かな暮らしづくり

##### ① サービスの質の向上

課 題	選ばれる施設づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため、引き続き外部講師を招いて園内研修を行い、できるだけ多くの職員が討議に参加します。</li> <li>・ 毎月の運営委員会と共に食育検討会を行い、職員同士で研鑽を深めるとともに、各年齢や発達に合わせて保育に取り入れます。</li> <li>・ 小学校、幼稚園との連携を継続し、積極的に研究会へ参加します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所保育指針・コダーイ保育への理解を深めるため年6回外部講師を招いて研修を行いました。課題に対して担当者全員が参加する自主研修へと繋げ保育の質を高めるように努めました。</li> <li>・ 食物アレルギーを持つ子が増加傾向にあります。アレルギーを発症した園児の情報は運営委員会を通して全クラスの職員で共有するようにしました。</li> <li>・ 幼保小中関係の研修会に年長担当保育士が参加しました。</li> </ul>

##### ② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について、入園説明会にて周知を図ります。(年1回)</li> <li>・ 緊急蘇生法及び事故防止に関する研修を全職員対象に行います。(年1回)</li> <li>・ 火災、水害、地震等を想定した訓練を実施し、危機管理マニュアルを共有します。(月1回)</li> <li>・ 不審者対応訓練を実施し、日頃より職員間で意識を高める。(年2回)</li> <li>・ 衛生管理について園内研修を行い、共通理解を図ります。</li> <li>・ アレルギー対応食や提供について、実技研修を行います。</li> <li>・ ヒヤリハットや事故記録の検証と分析を行い、事故発生の減少に繋がります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急時の保護者への連絡方法や避難場所について入園説明会にて周知を図りました。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症予防のため緊急蘇生法の研修は実施できませんでしたが、新型コロナウイルス感染症予防のため基本的な予防対策の重要性を職員が共通認識して対応に努めました。</li> <li>・ 火災・水害・地震を想定した訓練を月1回実施し、危機管理マニュアルを共有しました。洪水被害を想定し第二避難場所への訓練を行いました。</li> <li>・ 不審者訓練を年二回実施しました。不審者の侵入経路を通用門や玄関など想定して訓練を行いました。</li> <li>・ ヒヤリハットや事故について運営委員会で報告して共有しました。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症やノロウイルスなどの発症予防や発症した場合の対応につ</li> </ul>

	いて、運営委員会で共通認識を図りました。
--	----------------------

### ③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	保育ニーズに合わせた一時預かり保育事業の方向性の検討
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時預かり保育は、子ども1人当たりの床面積や職員配置を遵守し、適正な受け入れを行います。</li> <li>子育てに悩んでいる保護者に寄り添った支援について、外部研修を利用して研鑽を積みみます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時預かり保育の問い合わせはありますが、年齢によっては床面積や職員配置を遵守するために受け入れできないことが続きました。定員以上に受け入れをしていることもあり預かり保育を一時中止します。今後は状況を見ながら検討します。</li> <li>子育て中の母親を支援するための自主事業として、毎月一回子育て教室を実施する計画をしていましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため開催できない状況が続いています。子育て支援たんぽぽ通信を年3回発行し、手づくりおもちゃとともに関係機関を通じて配布しました。</li> </ul>

課 題	特別な支援を必要とする子どもの保育の充実
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関わる専門機関や保健師との連携を強化します。</li> <li>園内支援会議や保護者を交えての支援会議を行います。</li> <li>必要に応じた職員配置とし、きめ細やかな支援をします。</li> <li>情報を共有できる仕組みを定着させることで、全職員で共通した支援をします。</li> <li>キャリアアップ研修「障がい児保育」への派遣研修や講師を招いての園内研修を行い、職員の理解を深めます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を必要とする子どもが増加傾向にあります。気になる子どもに対して園と保健師が連携し、専門機関への相談に繋げるようにした結果、保護者・保育園・療育支援施設の三者で支援会議を開催できるようになりました。</li> <li>療育手帳を取得している児童については加配職員により対応しています。</li> <li>キャリアアップ「障がい児保育」に一名が参加しました。</li> </ul>

## (2) 快適な住まいづくり

### ① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	子どもたちが安全で心地よく活動しやすい保育の環境の整備
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の安全点検や見回りを継続し、危険箇所の早期発見に努めます。</li> <li>倉庫、各クラスの戸棚等の環境整備活動を行います。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回3名の担当者が園内、園周りの安全点検を行っています。報告を受けた危険箇所については迅速に修繕を行いました。</li> <li>倉庫内や各クラスの戸棚を定期的に整理、確認することで備品や保育用品の活用に繋がっています。</li> </ul>

	・五色山学童クラブの増築を行ったので、保育園児も体操教室、英語教室、行事等に有効利用しています。
--	--

### (3) 活力に満ちた職場づくり

#### ① 人材の確保と定着

課 題	保育士の確保
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークや人材紹介所等を活用し、人材確保に努めます。</li> <li>・ホームページを活用して、職員募集の掲載を行います。</li> <li>・実習生の受入れを積極的に行い、人材確保に繋がります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士と栄養士の実習生を受け入れ、人材確保へ繋げることができました。</li> <li>・人材紹介所を活用した結果、令和4年度に向けて保育士3名の雇用を確保することができました。</li> </ul>

#### ② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用形態に関わらず、外部研修への参加を積極的に行い、職員全体の専門性の向上を図ります。</li> <li>・研修で学んだことを日々の保育に活かすことができるよう、研究グループを中心に園内研究を充実させます。</li> <li>・チーム保育の体制づくりについて職員間で協議を行い実践するとともに、主任保育士やクラスリーダー保育士を中心に経験の浅い保育士の指導、助言をおこないます。</li> <li>・外部講師を招いた、わらべうた勉強会など実践に結びつく研修を計画的に取り入れ、職員間で研鑽し合います。</li> <li>・保護者対応や職員間のコミュニケーション能力を高める研修を行います。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症予防のためオンライン研修が多かったが、園内で研修を受けられることは保育士にとっても負担軽減となったようで、復命書の提出も早くなりました。今後も希望者には勤務の調整をして研修を受けられるようにします。</li> <li>・未満児クラス・以上児クラス共に複数担任で保育を行っています。チーム保育の必要性は大切なことであるため、来年度も職員一同協力して取り組んでいきます。</li> <li>・以前に比べると子どもたちから、わらべうたが聞こえないので、職員間で取り組み方を考える必要があります。</li> </ul>

#### ③ 職場環境の改善

課 題	働きやすい環境づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長、副園長、主任保育士が中心となって、日頃から職員に声をかけるようにし、相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、必要に応じて面談の機会を持つようにします。</li> <li>・協力して業務を行うことで、休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくりをします。</li> <li>・メンタルヘルス・ハラスメント防止研修職員を派遣し、その復命研修を全職員に行う</li> </ul>

	<p>ことで、意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福利厚生として、職員のリフレッシュに繋がる企画や、コミュニケーションを円滑にするための機会をつくります。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒採用から再雇用まで年齢的に幅広く、雇用形態も違う正職員と非常勤職員が仕事をしながら、若い職員への言葉かけを意識して行っていたが、全職員へ個別に面接を行う機会を設けることができなかった。</li> <li>・正職員から非常勤職員へのパワーハラスメントが発生し、非常勤職員が休職から退職に至ったため講師を招いてパワーハラスメント防止の研修を全職員で2回実施しました。令和4年度からパワーハラスメント防止措置が事業主に義務化されたことを全職員に周知すると共に職員が問題を抱えたときに相談できる体制を整えました。</li> </ul>

#### ④ 業務の改善

課題	担当業務の負担を軽減するための体制づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員個々がワークライフバランスについて考えることで、時間内に業務を終えることができるようにします。</li> <li>・積極的に情報交換を行い、業務の見直しや負担軽減を図ります。</li> <li>・リーダーを中心に役割を分担し、事務に係る時間を確保します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度に職員の業務負担の軽減につなげるためにICT事業を取り入れることが出来ました。</li> </ul>

#### (4) 安定的な経営の基盤づくり

##### ① 収支の安定化

課題	利用ニーズに基づく利用定員の弾力運用の継続
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き可能な範囲で定員の弾力化を図った受け入れを行います。</li> <li>・一時預かり保育の受け入れは、年間の利用者数を見通して柔軟に行います。</li> <li>・各種補助金や算定可能な加算を取得し、施設整備や職員確保に活用すると同時に、動向を模索し収支の安定を図ります。</li> <li>・安定的な運営のため、3歳未満時の受け入れを全体の45%程度維持することを目標とします。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度に1歳児クラスを増築し、令和3年4月1日から定員を110名から120名に増員を行いました。</li> <li>・3歳未満児の受け入れは全体の43%でした。</li> </ul>

## 令和3年度 特別養護老人ホーム照古苑事業運報告

### 課題解決に向けた取組

#### (1) 心豊かな暮らしづくり

##### ① サービスの質の向上

<b>課 題</b>	看取りケアの推進と重度化への対応
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客対応として相応しい態度・丁寧語を徹底し、安心のサービスを提供することで、入所者・家族の満足度を高めます。</li> <li>・ 職員の採用時に介護等マニュアルを配布し説明を行い、職員が統一したケアに取り組みます。</li> <li>・ 看取り体制を検討し、改善・整備に努めます。</li> <li>・ 特定行為業務及び緊急時の対応に関する研修を実施します。</li> </ul>
<b>評 価 (実績)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度の退所者27名のうち、施設内看取りにて最期を迎えられた方が18名。 (他9名は体調変化による入院退所) ご入所の多くが当苑で終末期を望まれております。看取り期のご家族には相談員が他職種との連携を意識し寄添い、対応に努めました。また、令和2年度より看取り後のご家族アンケートとカンファレンスを始めました。</li> <li>ご家族アンケートでは「最期を迎える心の準備ができた。」「スタッフの皆様の手厚い介護、暖かい対応に心癒されました。」といった感想を頂いています。</li> <li>看取り後のカンファレンスは多職種で看取りケアを振り返る機会とし、お一人ごとに開催しています。施設部からは担当の介護士が経験に関わらず出席し、課内ででた意見をとりまとめ発表。介護士が主体的に関わるようになってきました。このカンファレンスにより課内で終末期のケアについて振り返りをするようになり、ケアの質向上に効果をあげています。</li> <li>・ 特定行為業務認定講習会に介護福祉士2人(照古苑1名、ひまわり1名)を派遣し、照古苑指導看護師による実地指導を経て熊本県に登録することができました。</li> </ul>

<b>課 題</b>	認知症ケアへの対応
<b>実行計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症に関する基礎的知識を習得できる研修を実施します。</li> <li>・ 認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートし、認知症ケアのレベルアップを図ります。</li> </ul>
<b>評 価 (実績)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎年職員研修で認知症看護認定看護師による専門的な講義を頂いており、令和3年度は「重度認知症の方の症状理解とケア」について学びを深めました。</li> <li>・ 照古苑初任者研修において、認知症サポーター養成講座を実施。新入職全員がサポーターとなっています。養成講座の講師役も内部職員がキャラバンメイトとして講義を行い、職場全体で認知症の理解と支援体制構築を図っています。</li> </ul>

## ② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策委員会で、前月の事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。</li> <li>・類似の事故が起らないよう職員間で情報共有します。</li> <li>・引き続き安全対策の全体研修を実施します。</li> <li>・入所者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策委員会を月1回開催。事故の振り返りと対応策の適否を検証しました。類似の事故が起らないよう職員間で情報共有に努めました。</li> <li>・ヒヤリハットノートを活用し危険予測・介護事故予防等を図っています。</li> <li>・職員研修では、安全対策に関わる研修を年2回実施。介護施設等における安全管理・リスク予防対策、身体拘束の適正化等、実際業務に関連する内容の講義を実施しました。</li> <li>・令和3年度は介護保険改正の1つ『安全対策担当者』配置。施設部管理職が研修を受講し、体制整備を図りました。</li> </ul>

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設職員としての倫理観、福祉理念を理解し浸透させるため、権利擁護について施設内研修を行います。</li> <li>・不適切ケアのアンケートを実施し、各部署において結果の検討を行います。</li> <li>・各部署において、実際のケアを振り返り、虐待になっているのではないかと考えられる事例を取り上げて検討し、権利擁護に関する意識強化を図ります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度法人で高齢者虐待防止・権利擁護窓口を開設。同対応マニュアルも整備。令和3年度職員研修では「養介護施設従事者等による高齢者虐待の防止」というテーマで熊本県社会福祉士会から講師派遣頂き、全職員が受講しました。</li> <li>・年2回（6月、12月）不適切ケアに関するアンケートを実施。予防と権利擁護の意識強化を図りました。</li> </ul> <p>残念なことに、2月当苑で虐待事案発生が確認されました（心理的・介護世話の放任）。事案に対して虐待防止法及びマニュアルに沿った対応を行いました。具体的には被虐待高齢者の方の安全確認と保護、市町村への報告。改善計画策定、被虐待高齢者家族への説明と謝罪、他全家族への文書通知を行っています。事案発生を重大に受けとめ、引き続き組織全体で防止・改善に取り組んでいます。</p>

## ③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	地域における公益的な取組の推進
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益的取組推進委員会において、地域の福祉ニーズと施設が持つ「ひと・もの」の機能とのマッチングについて検討を行います。</li> </ul>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生計困難者レスキュー事業は相談が9件（支援実施が5件）。令和2年度と同件数でし</li> </ul>

(実績)	<p>た。担当相談員は1名養成研修を受講し、計3名体制となり、地域の課題把握、社会資源と連携し対応に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェ、ひとり親学習支援事業等は感染対策のため開催が難しく、実施できませんでした。委員会の開催も同様に少なくなり年度末に1回開催。</li> </ul> <p>地域の既存資源や法人の機能とのマッチング等検討を行い、次年度の活動につなげていきたいと考えています。</p>
------	--

課 題	信頼と協力を得るための情報発信
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新及び広報により、随時の見学受入れなど地域への情報発信を積極的に行います。</li> <li>・小中学校等との交流や介護実習体験を積極的に受け入れます。</li> <li>・年1回開催される認知症をテーマにしたイベント「RUN伴」に積極的に参加していきます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは、新型コロナウイルス関連情報、求人などタイムリーな情報発信を行いました。令和4年度、内容の変更を予定しています。</li> </ul> <p>広報誌は感染対策で面会制限が続いたため、可能な限り苑内生活のご様子が伝わるよう工夫。広報委員会が中心となり、入居者家族、地域に向けた広報誌を意識し作成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座は昨年に引き続き県社協より講師依頼を受け2回実施。市内2校（網田中、宇土中）に3名の講師を派遣。うち1件はオンラインによる講義を行いました。地域にある社会福祉法人として福祉教育の一助となれるよう積極的に取り組んでいきたい活動です。</li> <li>・照古苑祭、RUN伴は感染対策にて令和2年から開催されませんでした。</li> </ul>

## (2) 快適な住まいづくり

### ① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	設備機器等の計画的更新
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴介助負担軽減のため、介護ロボット機器類であるシャワーベッド及びチェアシャワー各1台の導入を行います。</li> <li>・改築時の設備機器購入のために、計画的な資産積立を行います。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特浴機シャワーベッド1台、見守り機能付きベッド4台を導入しました。</li> <li>・改築時の設備機器購入に百万円を積み立てました。</li> </ul>

課 題	照古苑改築計画の策定
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改築に関する諸条件の把握分析を行います。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度介護報酬改定により個室ユニット型施設における1ユニットの定員が現行10人以下であったものが、15人まで可能となったことから、施設入所定員110人及び短期入所定員20人をそれぞれ5人減員し、合計8ユニット、120人定員に</li> </ul>

	再編し、熊本県から改築補助金を受けられるように計画します。1床につき250万円が見込まれ、施設定員105床に対し2億6,250万円の補助金が予想され、改築時の借入金を低減できる見込みです。
--	--

課 題	施設整備等積立資産の計画的積立
実行計画	・施設運営に支障を来すことなく、計画的な積立を行います。
評 価 (実績)	・令和2年度決算剰余金34,999,689円、令和3年度の寄附金130,000円及び施設整備積立資産資金運用による利息2,735,000円の積み立てを行いました。

### (3) 活力に満ちた職場づくり

#### ① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、施設実習の受入れを行います。</li> <li>・高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。</li> <li>・ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、施設実習受入れは感染体制のため行うことができませんでした。</li> <li>・高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知しました。</li> <li>・ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等も積極的に活用しました。</li> </ul>

課 題	人材の定着
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントを防止するための窓口を設置し、各部署に掲示を行います。</li> <li>・人事評価に部下が上司を評価する制度を実施できるよう検討します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度にハラスメント相談窓口設置、相談対応マニュアル整備。令和3年度は職員研修、職員アンケートを実施。意識付けと防止に努めました。相談実績としては1件の相談を受付。関係部署と協力し対応、終結につなげることができました。</li> </ul>

#### ② 人材の育成

課 題	職員の専門性の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定特定行為業務従事者や介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得を施設全体でサポートします。</li> <li>・職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定特定行為業務従事者を新たに2名養成（施設内研修により）。現在法人内計35名体制を整備しています。（照古苑25名、ひまわりホーム10名）</li> <li>資格取得は、介護福祉士1名、介護支援専門員は新たな取得者はいませんでした。</li> </ul>

	<p>有資格者の更新研修受講等、環境を整え支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場外の専門研修はオンラインやオンデマンド受講が主流となり積極的に参加(受講)することができました。</li> </ul> <p>介護士の人材育成として、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。今年度は主任・副主任が指導・評価者となるため内部研修を実施。上司からの助言支援を受けながら、実践できる環境を整えました。(介護 OJT)</p>
--	--

課 題	研修計画の策定
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の介護技術、介護経験に応じた段階的な多職種の研修計画を策定し実施します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度は感染拡大もあり、計画8回のうち実施できたのは3回でしたが、令和3年度は計画通り計10回実施することができ、録画視聴という新たなシステムを取入れ、受講率は平均80%を超えました。</li> <li>さらに、新たに階層別研修を実施(主任・副主任対象)。指導的立場となる役割を理解し、実務に活かせるよう次世代の人材育成の取組みを始めました。また、今年度は職員研修に関するアンケートを実施。アンケート結果を踏まえ、今後の研修計画策定、運営に活かしていきます。</li> </ul>

### ③ 職場環境の改善

課 題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケア(自分自身をケアすること)の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。</li> <li>・年次有給休暇の取得率50%を目指します。</li> <li>・照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションの開催を支援します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックは年1回実施。集団分析結果を事業運営会議で報告しました。また、令和3年度は、新たに『職場環境に関するアンケート調査』を実施。集計結果から課題を把握し、人事検討委員会で改善策を協議しました。今後の運営につなげていきたいと考えています。</li> <li>・事業運営会議で有給取得、休暇の取得の推進を周知しました。</li> <li>・年次有給休暇の取得率は全体で73.8%となりました。 (照古苑：74.9%、ひまわりホーム：70.7%)</li> <li>・令和3年度も感染対策で、照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションは開催できませんでした。</li> </ul>

課 題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントを防止するための窓口を設置し、各部署に掲示を行います。</li> <li>・ハラスメントに関する全体研修会を実施します。</li> </ul>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度窓口開設。対応マニュアルの整備。事業運営会議にてハラスメントの防止、</li> </ul>

(実績)	<p>課内での意見交換及び窓口への相談勧奨等、周知徹底を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントに関する職員研修(全員対象)、アンケートも実施しました。初任者対象には、別に窓口周知等研修を行いました。</li> </ul> <p>相談窓口担当で定期的な打合せ、情報共有に努め、相談員としての質向上のため研修受講も行いました。</p>
------	---

#### ④ 業務の改善

課 題	ICT を活用した介護機器等の積極的な導入
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴介助負担軽減のため、介護ロボット機器類であるシャワーベッド及びチェアシャワー各1台の導入を行います。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャワーベッド、リフト式シャワーチェアを導入しました。</li> </ul>

課 題	時間外勤務の縮減
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間等設定改善委員会を開催して業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。</li> <li>・事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間等設定改善委員会は月1回開催。それぞれの部署が業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりを意識しました。</li> <li>・事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、時間外勤務の縮減意識を高めました。</li> </ul>

#### (4) 安定的な経営の基盤づくり

##### ① 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入所に繋がります。</li> <li>・医療的ケアの必要な方の受け入れ体制の検討を行います。</li> <li>・くまもと心療病院との連携・連絡会議を月1回行い、重度の認知症の方の円滑な受入れに繋がります。</li> <li>・感染症対策を徹底し、感染症を予防し、入所者の感染症による入院を減少させます。</li> <li>・歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。</li> <li>・短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。</li> <li>・通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるように、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業については、関係機関と積極的な連携を図ることで、新規利用者の確保に繋がります。</li> </ul>
<b>評価 (実績)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養の稼働率は平均98.9。令和2年度(99.4)より低減となりました。入所経緯内訳は最も多かったのが老人保健施設7名、次いで有料等施設が5名、次いでくまもと心療病院4名、在宅からが最も少ない2名でした。当苑ショートから切れ目ない入所は3名、入退院での再入所3名でした。</li> <li>入所待機者の状況把握、入退院調整という面では、施設相談員、ケアマネジャー、医療機関との連携は図れましたが、感染対策もあり家族と直接面談、意向確認がなかなかできない状況でした。多くの施設がある中、当苑を選択頂き、又、待機者の円滑な入所調整を図るためにも、地域住民や待機者家族との関係構築は今後取り組むべき重要な課題だと思われまます。</li> <li>・感染対策の継続2年となり、2年間、入所者から感染者を1名も発生させることなく経過できたのは、組織全体で連携協力を図れたおかげだと思われまます。今後も日常の健康管理、入退院時の医療機関との連携を図り、稼働率改善につながるよう努めてまいります。</li> <li>・ショートステイは人員体制の課題があり受入れ人数を制限したため、利用率が大きく減少しました。来年度、ショート利用者の増加に向け、人員配置や居宅事業所との連携等取り組んでいきます。</li> </ul>

課 題	オムツ・尿取りパッド使用の適正な把握
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄委員会を設置し、オムツ・尿取りパッドの使用方法的適正化を図ります。</li> <li>・オムツ・尿取りパッドの使用量を把握し、コスト低減を図ります。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄委員会を設置。委員会は施設部所属長を構成員として月1回開催。</li> <li>・オムツ・尿取りパッドの使用方法的、使用量を把握し、コスト低減を図りました。また、紙おむつの導入等の適正化を検討しました。</li> </ul>

令和3年度 地域密着型介護老人福祉施設 照古苑ひまわりホーム事業運営計画

課題解決に向けた取組

(1) 心豊かな暮らしづくり

① サービスの質の向上

課 題	個別ケアの推進
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24時間シートについて理解を深めることができるよう、全職員がユニットケアへの共通認識を持ちます。</li> <li>・ 多職種協働による24時間シートをケアプランの更新に合わせて遅滞なく更新します。</li> <li>・ 個別ケアの充実に向けて、「本人・家族の意向」の聞き取りシート等を活用し、暮らしの継続とユニットケアの原点である個々の好み、時間に合わせた起床、排泄、食事、入浴等の実践に繋がります。</li> <li>・ 認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修への派遣、及び認知症ケア専門士資格取得をサポートし、認知症ケアのレベルアップを図ります。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しく異動してきた職員やユニットケアを経験したことがない職員に対してユニットリーダー研修を受けた職員等が24時間シートについて教育・指導を行いました。また、ユニットケアへの共通認識を持つために月1回のユニット会議を行いました。</li> <li>・ 24時間シートのケアプランの変更時に合わせ遅滞なくシートの更新は途切れなくできていましたが、シート内容（意向、できること、支援が必要な事）の記載が遅れる事がありました。介護記録ソフトブルーオーシャンの操作能力に個人差があることも遅れたことの要因の一つと考えられます。</li> <li>・ 入居者の入れ替わりがあるたびにユニットのシステムを変更する部分が出てきましたが、ご本人、ご家族へ意向を確認し、ご家族の協力を受けながら変更し、個別ケアに当たることができました。</li> <li>・ 認知症看護認定看護師による専門的な講義、新人職員に対しては認知症サポーター養成講座等、職員研修等を通じて理解を深める事が出来ました。新入職全員がサポーターとなっています。また養成講座の講師役も内部職員がキャラバンメイトとして講義を行い、職場全体で認知症の理解と支援体制構築を図っています。</li> </ul>

課 題	看取りケアの推進と重度化への対応
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客対応として相応しい態度・丁寧語を徹底し、安心のサービスを提供することで、入所者・家族の満足度を高めます。</li> <li>・ 職員の採用時に介護等マニュアルを配布し説明を行い、職員が統一したケアに取り組みます。</li> <li>・ 看取り体制を検討し、改善・整備に努めます。</li> <li>・ 特定行為業務及び緊急時の対応に関する研修を実施します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度の退居者6名のうち、施設内の看取りで最期を迎えられた利用者は3名。 (他3名は体調変化による入院退居) 看取り期のご家族には、多職種から近況報告や</li> </ul>

	<p>コロナ禍での適切な面会対応を実施し、最期まで緊密な連携を実施することができました。また看取り後のご家族アンケートを実施し「満足している」との感想を頂いています。看取り後には職員へのアンケート、そしてカンファレンスを多職種で実施しています。情報の共有、振り返りを行うことにより、ケアの質向上に効果をあげています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為業務認定講習会に介護福祉士2名（照古苑1名、ひまわり1名）を派遣し、照古苑指導看護師による実地指導を経て熊本県に登録することができました。</li> </ul>
--	---

## ② 利用者の暮らしの保障

課 題	リスクマネジメントの強化
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策委員会で、前月の事故について振り返りを行い、対応策の適否を検証します。</li> <li>・類似の事故が起らないよう職員間で情報共有します。</li> <li>・引き続き安全対策の全体研修を実施します。</li> <li>・入居者の事故を防ぐ介護ロボット等を積極的に導入します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全対策委員会を月1回開催。事故の振り返りと対応策の適否を検証しました。類似の事故が起らないよう職員間で情報共有に努め、安全対策委員会で話し合った内容をひまわりホームのリーダー会議で報告し、各ユニットへ周知を行いました。</li> <li>・申し送りノート・ヒヤリハット（ファイリング）を活用し、危険予測・介護事故予防等を図っています。また、事故後の対策を立ててから1カ月評価の実施をしています。今後も職員の危険予測、原因分析、対策が課題であると考えています。</li> <li>・職員研修では、安全対策に関わる研修を年2回実施。介護施設等における安全管理・リスク予防対策、身体拘束の適正化等、実施業務に関連する内容の講義を実施しました。</li> <li>・令和3年度より介護保険改正の一つ『安全対策担当者』配置が義務化されました。施設部管理職が研修を受講し、体制整備を図りました。</li> <li>・令和3年度には介護機器の赤外線センサーを導入しました。</li> </ul>

課 題	権利擁護の徹底
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設職員としての倫理観、福祉理念を理解し浸透させるため、権利擁護について施設内研修を行います。</li> <li>・不適切ケアのアンケートを実施し、各部署において結果の検討を行います。</li> <li>・各部署において、実際のケアを振り返り、虐待になっているのではないかと考えられる事例を取り上げて検討し、権利擁護に関する意識強化を図ります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度法人で高齢者虐待防止・権利擁護窓口を開設。同対応マニュアルも整備。令和3年度職員研修では「要介護施設従事者等による高齢者虐待の防止」というテーマで熊本県社会福祉士会から講師派遣頂き、全職員が受講しました。</li> <li>・年2回（6月、12月）不適切ケアに関するアンケートを実施。予防と権利擁護の意識強化を図りました。</li> </ul> <p>残念なことに2月同法人内で虐待事案発生が確認されました（心理的・介護世話の放</p>

	任)。事案に対して虐待防止法及びマニュアルに沿った対応がされています。また法人内で情報を共有し、事案発生を重大に受けとめ、引き続き組織全体で防止・改善に取り組んでいます。
--	---

### ③ 福祉ニーズに即したサービスの徹底

課 題	地域における公益的な取組の推進
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の老人会、婦人会、民生委員、子供会などへの利用を促していきます。</li> <li>・地域包括支援センターと連携し、「認知症サポーター養成講座」「介護予防教室」等の定期的な会場として活用を検討します。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェ「ひまわり」はコロナ禍のため開催することができませんでした。また、地域住民のための憩いの場として、ひまわりホーム1階にあります地域交流ホールの提供もできませんでした。</li> <li>・地域の既存資源や法人の機能とのマッチング等検討を行い、次年度の活動につなげていきたいと考えています。</li> </ul>

## (2) 快適な住まいづくり

### ① 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	適切な機器の更新と住環境整備
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者及び家族の意向を把握し、入居者の暮らしが豊かになるよう、施設設備の点検及び更新をします。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に施設の機器の点検を実施し、必要物品の更新や点検（パッケージ型自動消火設備のバッテリー交換や個々にあった車いすの変更、利用者の身体に合わせた低床テーブルの使用等）を行いました。また、エコキュートについて、これまでは頻繁に不具合を起こし、業務に支障をきたすこともありましたが、令和3年度に保守契約を結んだことで以前よりも早急な対応を取ってもらえるようになりました。</li> <li>・住環境整備では、居室空間ファンの劣化に伴う交換や居室のエアコン清掃などを行いました。今後も施設設備の点検、及び更新を適宜行っていきます。</li> </ul>

課 題	備品等整備積立資産の計画的積立
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理のない範囲で、着実な積立に取り組みます。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算計上した100,000円を積み立てしました。今後も計画的に積み立てを行います。</li> </ul>

## (3) 活気に満ちた職場づくり

### ① 人材の確保と定着

課 題	人材の確保
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、施設実習の受入れを行います。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。</li> <li>・ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等を積極的に活用していきます。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験、施設実習受入れは感染対策のため行うことが出来ませんでした。</li> <li>・高等学校等への求人活動において、熊本県認定「ブライト企業」を活用し、働きやすい職場を周知していきます。</li> <li>・ハローワーク、福祉人材センターや民間求人機関等も積極的に活用しました。</li> </ul>

課題	人材の定着
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントを防止するための窓口を設置し、各部署に掲示を行います。</li> <li>・人事評価に部下が上司を評価する制度を実施できるよう検討します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度にハラスメント相談窓口設置、相談対応マニュアル整備。令和3年度は職員研修、職員アンケートを実施。意識付けと防止に努めました。相談実績としては0件でした。</li> <li>・ハラスメントの職員アンケートで気になる内容を記載していた職員1名に対して本人から相談はありませんでしたが、相談窓口2名にて聞き取りを実施しました。受付対応までには至りませんでした。聞き取りを行った職員とその対象となった職員に対して公平性、平等性、秘密保持を説明し、対応に当たる事が出来ました。</li> </ul>

## ② 人材の育成

課題	職員の専門性の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定特定行為業務従事者や介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得を施設全体でサポートします。</li> <li>・職場外の専門研修へ計画的に参加してまいります。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定特定行為業務従事者を新たに2名養成（施設内研修により）。現在法人内計35名体制を整備しています。（照古苑25名ひまわりホーム10名）資格取得は、介護福祉士1名、介護支援専門員は新たな取得者はいませんでした。有資格者の更新研修受講等、環境を整え支援しました。</li> <li>・職場外の専門研修はオンラインやオンデマンド受講が主流となり積極的に参加（受講）することができました。</li> </ul> <p>介護士の人材育成として、介護技術を基礎とした専門性の到達目標を設けています。今年度は主任・副主任が指導・評価者となるため内部研修を実施。上司からの助言支援を受けながら、実践できる環境を整えました（介護OJT）。</p>

## ③ 職場環境の改善

課題	職員の心身の健康管理の推進
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケア（自分自身をケアすること）の教育やリフレッシュ休暇の取得を推進します。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次有給休暇の取得率50%を目指します。</li> <li>・照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションの開催を支援します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックは、年1回実施。集団分析結果を事業運営会議で報告しました。また、令和3年度は、新たに『職場環境に関するアンケート調査』を実施。集計結果から課題を把握し、人事検討委員会で改善策を協議しました。今後の運営につなげていきたいと考えています。</li> <li>・事業運営会議で有給休暇、休暇取得の推進を周知しました。</li> <li>・年次有給休暇の所得率は、全体で73.8%となりました。 (ひまわりホーム：70.9%、照古苑74.9%)</li> <li>・令和3年度も感染対策で、照友会による歓迎会、忘年会、レクリエーションは開催できませんでした。</li> </ul>

課題	ハラスメント防止対策の徹底
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントを防止するための窓口を設置し、各部署に掲示を行います。</li> <li>・ハラスメントに関する全体研修会を実施します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度窓口開設。対応マニュアルの整備。事業運営会議にてハラスメントの防止、ユニット内での意見交換及び窓口への相談勧奨等、周知徹底を行いました。</li> <li>・ハラスメントに関する職員研修(全員対象)、アンケートも実施しました。初任者対象には、別に窓口周知等研修を行いました。</li> <li>・相談窓口担当者で定期的な打合せ、情報共有に努め、相談員としての質の向上のため研修受講も行いました。</li> </ul>

#### ④ 業務の改善

課題	ICTを活用した介護機器等の積極的な導入
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の負担軽減に繋がるような介護ロボットやICT介護機器類など導入する機器の検討を行います。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末や介護記録ソフト、サイボーズクラウド等ICT介護機器類を導入しています。しかし、実際に導入しているICT介護機器類を使いこなせていない職員も多くいるのが現状であり、苦手意識を持つ職員に対して一定のスキルまで上げる事が課題と考えています。また、外国からの介護実習性とのコミュニケーションについてもICTは効果が期待できると考えています。</li> </ul>

課題	時間外勤務の縮減
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場づくりに努めます。</li> <li>・原因分析を行い、時間外勤務の縮減意識を高めていきます。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間等設定改善委員会は月1回開催。それぞれの部署が業務内容を精査し、無理・無駄の少ない職場作りを意識しました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営会議で時間外勤務実績について情報共有し、時間外勤務の縮減意識を高めました。</li> </ul>
--	--

#### (4) 安定的な経営の基盤づくり

##### ① 収支の安定化

課 題	利用率の維持向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居待機者の状況把握を早い段階で行い、また、家族面談や担当ケアマネからの情報収集を行い、速やかな入居に繋がります。</li> <li>・医療的ケアが必要な方の受け入れ体制の検討を行います。</li> <li>・くまもと心療病院との連携・連絡会議を月1回行い、重度の認知症の方の円滑な受入に繋がります。</li> <li>・感染症対策を徹底し、感染症を予防し、入居者の感染症による入院を減少させます。</li> <li>・歯科医や歯科衛生士等と十分連携したうえで、口腔ケアを徹底し、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等による入院を減少させます。</li> <li>・短期入所は、居宅介護支援事業所との密接な連携を図り、定期的な空き情報の提供や急なキャンセルの穴埋め等により利用率の低下を防ぎます。</li> <li>・通所介護は、各曜日の利用者数を平準化できるよう、居宅介護支援事業者や家族からの予約・希望の受け方を工夫します。</li> </ul>
評価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型特養の稼働率は99.6%。令和2年度(99.5%)より微増となりました。入居経緯内訳は、在宅2名、病院2名、老人保健施設1名でした。そのうち、ショートステイを利用してスムーズに入居になられた方は1名でした。次期入居者になられた方の利用施設や担当ケアマネジャーとは連絡を取り合うことが出来ました。ご家族とは担当ケアマネジャーを介して行うことがほとんどでした。今後はご家族との関係構築に取り組んでいくことが課題であると考えています。</li> <li>・令和3年度、新規入居者で医療的ケアが必要な方の受入れはありませんでした。再入居された利用者1名に、在宅酸素療法が必要となられた方がおられましたが、医療機関と連携しスムーズに在宅酸素機器を入れるなどの対応をとることができました。</li> <li>・令和3年度はくまもと心療病院との連携会議はありませんでした。今後もスムーズな入居調整のため連携を図っていききたいと考えています。</li> <li>・感染対策を徹底し、入居者から感染者を1名も発生させることなく経過できたのは、組織全体で連携協力を図れたおかげだと思われま。今後も日常の健康管理、感染予防に努めてまいります。</li> <li>・協力医療歯科機関との連携・調整はできました。入居者29名中半数以上の方は協力医療歯科機関より口腔ケアを受けられています。また介護職員による毎日の口腔ケアを実施しており、誤嚥性肺炎予防にもつなげることが出来たと考えています。令和2年度の肺炎での入院は4件でしたが、令和3年度は、肺炎で入院された方は2件と減少させることができました。</li> <li>・ショートステイの稼働率は80%と前年度75%を超える事が出来ました。来年度も80%を維持できるように、次期入居者のショート受入れを行っていききたいと考えています。</li> </ul>

課 題	オムツ使用の適正な把握
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄委員会を設置し、オムツの使用方法の適正化を図ります。</li> <li>・オムツの使用量を把握し、コスト低減を図ります。</li> </ul>
評 価 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄委員会を設置。ユニットリーダーが排泄委員会の委員となり、月1回のユニット会議にて入居者の排泄介助の時間、パット適性の評価、検討を行い、変更時には尿測を実施し、オムツ使用の適正化を図りました。また、オムツ外しも実施し、コスト低減を図っています。</li> </ul>

## 令和3年度 宇土市地域包括支援センター事業報告

### 事業別の具体的な取組事項

#### 1 包括的支援事業

##### (1) 総合相談支援事業

取組事項	① 地域におけるネットワーク構築
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域におけるさまざまな関係者のネットワークの構築を図ります。</li> <li>・ 講演をとおして、地区での周知啓発活動を行います。</li> <li>・ 個別のケース会議を通して、地域の個人のネットワーク構築を図ります。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域団体(民児協、公民館長会、老人会総会、婦人会長会に訪問。地区社協書面決議に同封)に啓発。老人会のレインボーマルシェで啓発。</li> <li>・ 講演活動は市に確認し自粛。</li> <li>・ 個別ケースでは延べ42件の対応</li> </ul>

取組事項	② 実態把握
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記で構築したネットワークを活用するほか、様々な社会資源との連携、高齢者世帯へ個別訪問、同居していない家族や近隣の住民から情報収集により高齢者や家族の状況等について把握をします。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要時に実施し、個別ケースにおいて延べ73件の対応</li> </ul>

取組事項	③ 総合相談支援
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な相談を受け、十分なアセスメントをベースに、丁寧に状況分析を行います。</li> <li>・ 相談内容に即したサービスまたは制度に関する情報提供、関係機関の紹介等を行います。</li> <li>・ 市民や地域組織団体に広く相談窓口の啓発を行います</li> <li>・ 協力機関と地区に応じた支援体制を構築します。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時実施し、個別ケースにおいて延べ1853件の対応</li> <li>・ 窓口啓発は、ネットワークとセットで実施</li> <li>・ 協力機関とは5月、7月、9月、11月、1月、3月に連絡会議実施</li> </ul>

取組事項	④ 保健福祉サービス等の適用調整
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な保健福祉サービスの相談に対して、手続き支援を行います。</li> <li>・ 介護支援専門員連絡会等で啓発を行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談があった時に対応し、326件の申請を行った。(内訳：介護保険271件、総合事業36件、緊急通報装置4件、食の自立支援2件、介護用品の給付2件、在宅介護手当1件)</li> </ul>

<b>考 察</b>	<p>啓発活動の効果が出てきており、年々相談件数は増加している。特に今年度は医療機関からの相談が増えており、コロナ禍の生活では健康維持が難しく医療機関の受診が増えているのではないかと予測される。ただ自由に外出可能になっても活動先のお元気クラブが減少しているので、今後も健康維持が難しい状態は続くと思われる。介護サービスに依存しやすい状態が長く続くことが心配される。</p> <p>相談内容としては、癌など重い病気や介護保険申請についての相談が多かった。入院期間短縮のためか、認定が出る前に退院となるケースが多かった。認定前の退院の場合、サービス利用をしばらく我慢するか、自費リスクを受け入れて利用するかの判断を迫られることとなり、本人や家族の負担が大きくなる課題がある。</p> <p>ケースの特徴としては、受援力が低いケース、家族や地域と疎遠なケース、家族が本人に依存しているケースが目立った。共通して課題解決までに時間がかかるケースと言える。受援力が低いケースの場合、どんなに不自由でも1人で生きたいと希望され、一般的に不適切と言われている生活の中で、どのように自己決定権を尊重していくかが課題となっている。家族が本人に依存しているケースでは、家族への支援が必要で多様な課題への対応が必要となる。世帯全体の課題に対応して行けるような、新たな相談支援体制の仕組みを考える時期に来ていると思われる。</p>
------------	---

## (2) 権利擁護事業

<b>取組事項</b>	<b>① 成年後見制度の利用促進</b>
<b>内 容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括の啓発時に成年後見制度の周知を行います。</li> <li>・ 成年後見制度の必要性や申立てについて、関係機関や関係者と調整を図ります。また、親族申立てが困難な場合は必要に応じて、市長申立てを高齢者支援課と検討、調整します。</li> </ul>
<b>実 績</b>	<p>○対象者数：14件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長申立ては高齢者支援課と連携対応し、進捗状況を随時確認した。また、スムーズな連携のためにフロー図作成を高齢者支援課へ依頼した。</li> <li>任意後見制度については、司法書士会や公証人役場と連携。</li> <li>・ 10月に成年後見制度の研修会。事前に介護支援専門員や施設管理者へ成年後見制度の課題や悩み等を把握。</li> </ul>

<b>取組事項</b>	<b>② 老人福祉施設等への措置の支援</b>
<b>内 容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 虐待等の場合で、高齢者を老人福祉施設等へ措置入所させることが必要と判断した場合は市と協議しながら、必要に応じて措置入所の支援を行います。</li> </ul>
<b>実 績</b>	<p>○対象者数：2件。</p> <p>○入所後に高齢者支援課と一緒に支援方針を検討、実施。</p>

取組事項	③ 高齢者虐待への対応
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 包括の総合相談窓口啓発時に、虐待の相談窓口の周知を行い、早期発見、通報に繋がるようにします。</li> <li>・ 虐待の事例を把握した場合は、速やかに高齢者支援課と連携し、当該高齢者を訪問して安全・事実確認等、措置を講ずるとともに、背景要因を確認後、関係機関と協議しながら対応します。また、養護者支援も並行して行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象者数：9件（うち虐待認定4件）</li> <li>○市内の介護支援専門員へ虐待通報の考え方や通報協力依頼。また、中央民児協にて虐待事例説明と通報の啓発。</li> </ul>

取組事項	④ 困難事例への対応
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困難事例の相談を受けた場合は、複数の職員で訪問し状況を確認します。対応については、センター内で検証し各機関と連携をしながら支援していきます。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対象者数：15件</li> <li>○関係者や関係機関と会議を開催し情報共有や支援方針の決定等を実施</li> </ul>

取組事項	⑤ 消費者被害の防止
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者被害を未然に防止するため、消費者センターや警察、民生委員、介護支援専門員等からの情報把握に努め、必要な機関等へ情報共有を行い、住民への周知を図ります。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対応件数：3件</li> <li>介護支援専門員へ情報提供を実施</li> </ul>
考 察	<p>成年後見制度の利用促進では、関係機関対象に研修会を実施したが、まだまだ制度理解が不十分だと感じている。特に財産管理だけで制度利用を考えるのではなく、身上保護で本人にとって適切なタイミングで関係者が相談できるように、社協の成年後見支援センターとも連携を図り、周知啓発に力を入れていきたい。</p> <p>虐待対応では、早期発見・早期対応が必要であり、虐待に繋がる気づきやアンテナが重要であるが、地域住民や関係者の認識が不足していると感じる。また、虐待認定することは養護者を罰するものでなく、高齢者と養護者を支援の対象として法律に基づいて介入、支援することを高齢者支援課と共通認識ができていないように感じる。同時期に虐待対応が数件重なると負担は大きいが見守りを続けるのではなく、適切なタイミングで強い介入を行い、虐待の解消に向けて組織的に対応する必要があると実感している。改めて虐待対応の考え方や対応の進め方（流れ）を共有する必要がある。</p> <p>困難ケースでは、本人や取り巻く環境に様々な課題や背景があり、基本的に本人と信頼関係を構築し、本人の自己決定を尊重する支援を行うが、生命や健康、生活が損なわれるような事態が予測されるなどの支援が多くなっている。セルフネグレクトの状況で生命の危機もあれば、高齢者虐待防止法の取扱いに準じて必要な支援を行っていく必要があるので高齢者支援課と連携をしていきたい。また、家族や地域からどう</p>

	にかしてほしいと本人不在で話が進んでいくケースもあり、本人を中心に支援していくことを家族や地域へ伝える難しさを感じている。
--	---

### (3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

取組事項	① 包括的・継続的なケア体制の構築
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービス以外の地域における様々な社会資源を活用できるように地域連携・協力体制を整備します。</li> <li>・多職種参加の事例検討会の開催、顔の見える関係作りを行います。</li> <li>・民生委員と介護支援専門員の関係構築を支援します。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネ連絡会において、連携機関の認知症疾患医療センターの担当者、初期集中支援チームの紹介。</li> <li>・医介連携の入退院ガイドブックの利用促進啓発</li> <li>・ケアマネ連絡会毎月参加しケアマネ連絡会の計画、研修会企画支援</li> <li>・多職種参加の事例検討会の開催はできなかったが、他事業の研修会を紹介し参加を促した。</li> <li>・ケースによって民生委員とのつなぎ支援</li> </ul>

取組事項	② 地域における介護支援専門員のネットワークの活用
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の介護支援専門員の日常的な業務の円滑な実施を支援するために、介護支援専門員の相互の情報交換等を行う場として居宅介護支援事業所・包括連絡会の活用をします。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月ケアマネ連絡会で情報交換（オンライン）マネジメントに係る包括の関連事業や社会資源の紹介 （情報交換内容） 消費者被害情報、認知症高齢者徘徊等SOSネットワーク、認知症ケアパス、お役立ち情報、介護報酬改定情報、訪問介護事業所空き情報、オンデマンドバス、配食情報、在宅介護手当申請者拡大について、主任ケアマネ更新要件研修について、要支援から要介護になったときの連携のため居宅担当空き状況</li> </ul>

取組事項	③ 日常的個別指導・相談
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の介護支援専門員に専門的見地から個別指導、相談への対応を行います。</li> <li>・地域の介護支援専門員の資質の向上を図る観点から事例検討会や研修会の実施、制度や施策等に関する情報提供を行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○対応件数：延べ137件</li> <li>・通所介護・訪問介護の現行利用について相談対応</li> <li>・権利擁護、認知症研修会の紹介、多職種セミナー紹介</li> <li>・自立支援・重度化防止の研修会を開催できなかったが、適切な介護予防マネジメント手法を習得するための介護予防マネジメントオンデマンド研修（長寿社会開発センター）の視聴啓発</li> </ul>

取組事項	④ 支援困難事例等への指導・助言
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の介護支援専門員が関わる支援困難事例について、適宜、地域包括支援センターの専門職や地域の関係者、関係機関との連携の下で、具体的な支援方針を検討し、指導助言等を行います。</li> <li>必要時は、個別ケア会議開催の支援を行います。</li> </ul>
実 績	<p>○対応件数：延べ46件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当している家族に個性が強く対応が難しいケースや経済的にK Pが困って支援が必要なケース、担当CMと本人・家族の関係性が悪いケース、本人の認知症状への対応困難ケースで、同行訪問や会議開催支援、他機関（警察・社協・疾患センター・薬局）と連絡・調整など行った。</li> </ul>
考 察	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ過で顔の見える関係作りがケアマネ会でもできていない。</li> <li>・自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメント研修会ができず、オンデマンド視聴啓発だけだった。まだ要介護の方への自立支援意識の不足があり、要介護の方にも必要だと意識改革が必要</li> <li>・事例検討会参加者が固定化されてきており参加人数が少ない。また、事例検討についても内容の検討が必要</li> </ul> <p>(次年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括主導で質の向上の研修会の開催。自立支援・重度化防止について意識を高める</li> <li>・ケアマネからの相談について相談件数・相談内容を整理・分類し現状把握や地域課題について考察する</li> <li>・1人CM、2人CMが多いので、気軽に相談できる関係構築。居宅ヒアリングを継続し包括への要望も聞き取る。</li> <li>・CM会のバックアップ体制の強化。今後もCM主導で研修会など意欲的に計画、実施ができるようにしたい。</li> <li>・CM会の事例検討会の参加を増せるように、連絡会とも協力・工夫していく</li> </ul> <p>(考察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の連絡会を通じて、CMに対して介護保険関連情報やインフォーマル情報を周知した。事例検討会では事例に対して専門的視点での質問や助言ができたが、虐待の視点を持って対応が必要と思われるケースで、参加したCMから意見が出ず、住民の身近で関わるCMに権利擁護の視点について今後も研修が必要と感じた。また、個別ケースへの助言や支援については包括内で協議して多職種での視点で後方支援に努めている。ケアマネからの相談として本人よりもK Pに問題が多いケースが増えている。ケアマネ一人で抱えこまずに気軽に相談できる包括との関係構築に努める</li> </ul>

#### (4) 地域ケア会議推進事業

取組事項	① 個別ケースの検討
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立支援型地域ケア会議の開催 多職種が協働して高齢者の自立支援・重度化防止に向けた助言を行う</li> <li>・ 地域ケア個別会議 複合的な課題を有する高齢者の事例について、多職種が協働してその問題解決方法を検討する</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ZOOM または集合形式にて毎月開催できている。</li> <li>○自立支援型地域ケア会議：21事例</li> <li>○地域ケア個別会議：1事例</li> <li>・ 地域ケア会議後取り組み事項の報告、取り組み結果報告を受けて評価まで行っている。取り組み事項に不足があれば助言をして再提出をお願いしている。</li> </ul>

取組事項	② ネットワーク構築
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ケア会議に参加する専門職と介護支援専門員のネットワークを構築します。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤師、栄養士、歯科衛生士、生活支援コーディネーター、主任ケアマネジャー 他必要に応じて認知症疾患センター、認知症推進員や民生委員、福祉課、うきうき生活支援センター、に参加してもらい、ネットワーク構築を図っている。</li> </ul>

取組事項	③ 個別ケースの課題分析等による地域課題の抽出
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ケア全体会議 地域ケア会議で検討した事例から、地域の課題の発見・抽出・地域づくり・新たな社会資源の開発を検討する。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例からの地域課題 障がいを持つ若い方の受け皿がない。集まれる場所（趣味活動の場）が少ない。 網田・網津地区に移動手段がない。 社会資源としての移動手段がないことで介護保険からの卒業ができない。市からの補助ができないか。 団塊の世代はパチンコなどのギャンブルに興味があるため、老人センターにパチンコ台やスロット台を置くことはできないか。</li> </ul>

取組事項	④ 生活支援コーディネーター等の多様な関係者と連携し、地域課題の共有及び地域資源形成の検討
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ケア会議で抽出された地域課題について、生活支援コーディネーターと情報を共有し、課題解決に向けた会議に参加し地域資源の検討を行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月の地域ケア全体会議へ参加し課題の情報の共有を図ったが、地域資源形成の検討までには至らなかった。</li> </ul>

<b>考 察</b>	<p>地域ケア会議に事例を提出することで、多職種から助言をもらって視点が広がったとケアマネさんから多くの感想をいただき、ケアプランにも反映し取り組みが来ていていると感じている。質の向上につながっている。</p> <p>Zoomでの会議のため、ネットワーク構築まで至っていない。今後の対応として会議の前に助言者の紹介をしたり、参加者名をわかりやすく表示したり、司会進行でCMが助言者と連携しやすいように声かけ相談しやすい関係作りを行っていく。</p> <p>現状の会議の件数では母数が少ないため、個別の課題であって、地域課題といえるのか、毎回地域課題が上がるわけでもない。どれくらい蓄積したら地域課題といえるのかわからない。市がどういう分析を求めているのか知りたい。</p> <p>現状、課題が上がったのを情報共有するだけでここ数年経過している。</p> <p>仮説を立て、地域を絞って介護度関係なく事例を出してもらって地域課題の抽出を試みてはどうか。</p>
------------	---

**(5) 認知症地域支援・ケア向上事業**

取組事項	① 認知症の人を支援する関係者の連携を図る
<b>内 容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般市民に向けた普及・啓発として、認知症予防講座等の開催を行います。</li> <li>・ 認知症介護従事者研修会を開催します。</li> <li>・ 介護支援専門員連絡会や各種団体へ啓発を行います。</li> <li>・ 認知症ケアパスの活用促進に努めます。</li> <li>・ 医介連携事業との協働を行います。</li> <li>・ 該当する研修会への参加、協力を行います。</li> </ul>
<b>実 績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及啓発については、包括のチラシを70歳・75歳交付式に同封、レインボーマルシェや各種団体等にチラシ配布。広報誌で認知症特集及び事業・相談窓口を周知。</li> <li>・ 介護従事者研修会の実施</li> <li>・ 個別ケース毎に主治医や認知症疾患医療センターと連携</li> <li>・ ケアマネ会でケアパスの普及啓発</li> <li>・ 医介連携事業と研修会（若年性認知症と事例検討会）の実施</li> <li>・ 懇話会事例研修等周知協力・サポート医研修の事例提供協力</li> <li>・ 認知症に関連する研修会等への参加（Zoom）</li> </ul>

取組事項	② 認知症の人や家族への相談支援、支援体制の構築
<b>内 容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症について相談があった場合、認知症推進員及びセンター職員が訪問や相談に対応します。</li> <li>・ センター内で対応が困難な場合においては、適切な時期に認知症初期集中支援チームにつなぎ連携を図ります。</li> <li>・ 認知症に対する理解促進を図る認知症フォーラム等を主体的に企画し、他法人と連携、協力して開催します。</li> </ul>

<p><b>実績</b></p>	<p>○認知症相談：実人数は174名(匿名相談を除く)・延件数1302件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別対応では、若年性認知症の方に若年性コーディネーターや専門病院の相談員と連携を図り、市内の障がい者就労事業所や相談支援事業所へ受入れについて情報収集。結果、就労対象とはならず、以降個別支援を継続。</li> <li>・認知症フォーラムは代案として、認知症の人を地域で支えることや早期発見・受診の必要性、相談窓口の周知などを広報うと11月号に掲載。</li> <li>・認知症の読み聞かせは小・中学校向けの講座に取り入れた。</li> <li>・対応困難ケースは初期集中支援チームや権利擁護等別の事業と連携。</li> <li>・新しい生活様式として、関係機関との打合せはZoom、具体的な調整はメールを活用するなど、工夫を重ねた。</li> <li>・徘徊見守り模擬訓練は、認知症サポーター養成講座と合同で実施。キッズサポーターを通して親世代への普及啓発につないだ。</li> </ul>
<p><b>考察</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったが認知症地域支援推進員の訪問件数は435件(前年比99%)包括全体の認知症相談件数は前年比141%と大幅に増加。【他事業で関わっているが、その要因として認知症がある】というケース、特に身寄りがない・家族力低下・地域からの孤立等、複数の課題を持つケースが増えている。</li> <li>・相談に来所した家族が包括スタッフと本人との面談を希望せず、本人に会えないまま家族を通して支援するという新たなケースが出てきた。</li> <li>・本人や家族の意思決定を尊重した対応を心がけ、必要と思われる情報提供等は随時実施。若年性認知症の家族から、『近隣には知らせたくない。興味本位で近寄ってくる』との強い考えでサービス事業所も自宅から遠い場所を選択。認知症についての正しい理解の周知やみんなで見守る為の地域づくりが、当事者のところまで到達しておらず、高齢者の認知症とは、生活のしづらさや課題も大きく異なる事を痛感。本人支援・家族支援について行政にも意見をもらいながら検討をしたい。</li> </ul> <p>【次年度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合型の周知啓発はコロナ禍の状況をみながら柔軟に対応。新たに、認知症の記事を広報誌に掲載(9月のアルツハイマーデーに合わせて)</li> <li>・65歳の交付式に相談窓口のチラシを同封(周知率50%に向け)、老人クラブとの連携</li> <li>・介護従事者研修時、障害支援事業所や介護サービス事業所等へ、若年性認知症の方の受入れについて意見交換やアンケート等を検討する</li> <li>・その他、行政の8期計画と具体策をもとに計画的、段階的な企画・調整を行う(厚労省・県の研修では高齢者数増加と認知症数増加が顕著になるとの説明が毎回あるが、上記のように複数の課題を抱えるケースが増えている現状を加味すると、個別支援と関係機関との連携・役割をどこまで担えるのか予測がつかない。行政の考える事業の優先順位に沿って計画する必要がある)</li> </ul>

(6) 認知症サポーター養成事業

<p><b>取組事項</b></p>	<p>① 認知症サポーター養成講座の実施</p>
--------------------	--------------------------

内 容	・市との連携を行い、必要な対策（感染予防対策、講義内容調整、キャラバンメイト調整）を行いながら講座を実施します。
実 績	・感染対策のために参加人数、環境等確認調整を実施。 ・6月宇土市役所新人職員、宇土小6年生（2クラスづつ×2日間）、7月網津地区住民、9月生協店員、9月照古苑職員、10月郵便局員、一般市民向け、11月走湯小6年生、網田中1年生親子、1月熊本地域ICT協会と計11回実施。 ・講座開催方法としてZOOMで3回、従来の集合型で8回。参加人数230名。

取組事項	② 認知症の理解者や認知症サポーター養成講座の受講者を増やすための啓発・広報の実施
内 容	・市と連携しながら地域や学校への啓発・普及活動を行います。 ・キャラバンメイトスキルアップ研修（Web研修又は資料配布）を開催します。
実 績	・5月キャラバンメイトスキルアップ研修をZOOMで開催。 ・宇土小での講座開催を熊日新聞とうと広報で記事掲載。また、県知事表彰の推薦をした。 ・うと広報で認知症講師派遣（8月）や一般向けの養成講座開催の周知（9月）、宇土市内の小・中学校へ周知・啓発（9・10月）。 ・広報うと（11月号）での認知症特集でのキャラバンメイトの紹介を実施。

取組事項	③ 認知症サポーター受講者のフォローアップと活動の活性化を図る
内 容	・認知症サポーター受講者へのフォローアップ講座の実施を行います。また、アクティブチーム、チームオレンジの立ち上げに係る業務に協力します。
実 績	・サポーターへのインターネット環境確認を実施、集計を行った上で、サポーターフォローアップ講座についてはオンラインでの開催とした。（7名参加）アクティブサポーター2名登録。
考 察	<p>コロナ禍での講座開催はオンラインを含めた対応に切り替え実施。オンライン開催の利点や問題点などを考慮し、今後も開催のしやすさを向上できるように検討が必要と考えます。</p> <p>網田中学校での開催は保護者同伴受講で、若い世代の受講への取組みとして地域資源を巻き込みながら開催を行う事ができた。親が同席する事で生徒の意見を吸い上げる場面の工夫が必要であった。初めての試みでもあり、今後継続した講座開催定着に繋げる為にどのようにすべきかをしっかり検討していく必要性を感じる。</p> <p>啓発は直接訪問だけではなく、広報誌の活用し実施。実際の開催の様子を載せ、これまでと違う形でアピールをした。商店には啓発できておらず、次年度に強化をしたいと考える。</p> <p>今年度、認知症サポーター養成講座に関して、新しい事業所等に係る事もでき、地道な啓発での効果やコロナ禍でオンライン化が進む事で、手軽に開催や繋がる可能性を感じることはできた。しかしオンライン開催でのデメリットとして反応が分かり難く感じる場面もあり、人数や対象年齢などを見ながら、開催場所・開催方法等の</p>

	検討は今後も必要と感じる。
--	---------------

(7) 認知症高齢者見守り事業

<b>取組事項</b>	① SOSネットワークの強化と事業周知を図り、協力者及び協力事業所の増加を図る
<b>内容</b>	・SOSネットワークの事業周知を市内の事業所や認知症サポーター養成講座、認知症の講話等で行います。
<b>実績</b>	・認知症サポーター養成講座にて周知。

<b>取組事項</b>	② SOSネットワークへの事前登録を推進し、登録者への定期的な状況把握、登録情報の更新を行う
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な方は早期登録につなげられるよう各事業担当者との連携を行っていきます。</li> <li>・介護支援専門員連絡会・民生児童委員の協議会において事業の周知をします。</li> <li>・登録者への現況調査を行います。</li> </ul>
<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の介護支援専門員へ周知啓発。 ○新規登録：9件</li> <li>・現況調査をケアマネ・家族に連絡し状況確認したうえで意向確認の書類を郵送した。以前よりケアマネと家族からの協力が得やすくなった。</li> <li>・管理簿の課題について高齢者支援課と確認し整理を実施した。</li> <li>・現況調査を誰に行うのかということには神経を使って実施。家族間での情報共有がどの程度できているかも配慮。</li> </ul>
<b>考察</b>	<p>新規登録者数は9件（前年比－3件）。認知症高齢者の増加に伴い、対象となる高齢者の増加が予想される中、本システムの新規登録者数は横ばい。また、システム登録の提案から実際登録まで数か月を要することも多く、これらの背景には、身内の情報を第三者に提供することの葛藤や認知症への理解不足が重なる。また、そのことは、実際、高齢者が行方不明なってもネットワークを使わずに家族のみで捜索を繰り返している事例を聞く中でもいえることである。</p> <p>今後、本システムがスムーズに機能するためには、当事者家族をはじめ、見守る地域の認知症に対する正しい知識の普及と理解の深まりが重要と考える。併せて、システム発足から6年を経過している中、協力事業所等の趣旨を再確認してもらうための登録更新制のようなシステム作りが必要になっているのではないかと考える。</p> <p>SOSネットワークの協力サポーターや協力事業所の協力体制強化や事業理解の方法について高齢者支援課と検討していきたい。</p>

(8) 認知症初期集中支援推進事業

<b>取組事項</b>	① 認知症の人やその家族に支援チームが関わり、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する
-------------	---

内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問支援対象者の把握をします。</li> <li>・ 情報収集及び観察・評価を行います。</li> <li>・ 初回訪問時の支援を行います。</li> <li>・ 専門医を含めたチーム員会議の開催を行います。</li> <li>・ 初期集中支援の実施を行います</li> <li>・ 引継ぎ後のモニタリング(終了後3か月目)</li> <li>・ 支援実施中の情報共有を行います。</li> <li>・ 支援チームに関する普及啓発を行います</li> </ul>
実 績	<p>○対象者3名（2名継続中）モニタリング1名</p> <p>月に1回集合型または、オンラインで会議開催。チーム員で役割分担をし、認知症の人やその家族を支援。関係機関とも連携した。</p>
考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2名は独居。1名は夫の入院以降独居。3件とも包括で把握・支援していたケース。家族の協力が得られない、親族への被害妄想などから支援困難さが続き、チームへつないだ。医師を含む多職種で協議・支援につながっており、チームならではの対応が出来ている。</li> <li>・ 認知症の初期というより、認知症の進行により生活のしづらさが具体化し、困難ケースとなって数年経過したというケースが多い傾向。特に本人には困り感がない為、複数回訪問し生活状況等を丁寧にアセスメントした。</li> <li>・ チームの活動や会議を通して、専門医の診断やサービス調整につながっている。親族や地域からの孤立もあり介入困難な状況だが、家族や親族、地域との関係性の再構築にも配慮し活動。</li> <li>・ 1ケースは専門医受診し精神疾患の診断となったが、MCIの可能性もあるというチーム内医師の助言に沿って引き続き対応する事になった。会議で合意形成したものを支援に活かす体制が出来ている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他機関から初期集中支援チームへの相談依頼がなかった。次年度は、関係機関や他機関への普及啓発、活用促進の方法を検討。</li> </ul>

(9) 生活支援コーディネーター事業

取組事項	① 第2層協議体の運営及び設置に向けた普及啓発
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民が一同に集まることは困難であり、個別ケースを通して地域における助け合い、支えあいを広げる仕組みづくりに努めます。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民が一同に集まる協議体運営や個別ケースを通しての会議の実績はない。</li> </ul>

取組事項	② 生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート業務
------	--------------------------------------

内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の資源把握、開発を行います。</li> <li>・お役立ち情報の管理、普及啓発を行います。</li> <li>・介護予防推進のための地域への情報提供、啓発を行います。</li> <li>・協議体や地域ケア会議等への積極的な参加による地域課題の整理及び課題解決に向けた取り組みを行います。</li> <li>・支援ニーズとサービスのマッチングを行います。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動販売とくし丸、ヤマト運輸見守りサービスなどの新規把握。</li> <li>・お役立ち情報改訂、ケアマネ連絡会にてお役立ち情報の啓発を実施</li> <li>・走潟公民館の成人講座、レインボーマルシェに於いて参加者へ介護予防促進の情報提供。</li> <li>・地域ケア個別会議へ毎月参加し、地域ケア全体会議（地域課題共有）へ参加</li> </ul> <p>○マッチング：91件 （具体的なマッチング先）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配達弁当、自費福祉用具、自費お泊り、福祉タクシー、自費ホームヘルパーや家政婦、シルバー人材センター、訪問マッサージ、老人センター活動、移動販売、公民館講座、コミュニティバス、社協ボランティア。</li> <li>・社協の情報誌（生活支援お宝ブック）をCM会で啓発。</li> </ul>

取組事項	③ サービス・生活支援の担い手の把握
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会の生活支援コーディネーターと連携を図り、社会福祉協議会の事業や地域の婦人会、老人クラブ等の担い手を把握します。</li> </ul>
実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちおこし協力隊、IGT、老人クラブと情報交換を行う。</li> <li>・走潟地区で来年度から実施される食堂について情報交換を行う。</li> </ul>
考 察	<p>地域資源の把握やマッチングは包括のみならず介護支援専門員へ随時情報提供を行い、誰でも活用できるような体制を図った。また、生活支援の担い手把握も随時実施できた。しかし、第2層協議体については、新型コロナウイルス感染症の影響もより、地域の支えあい体制づくりの推進等について個別ケースを通してのみにとどまった。その他、地域ケア会議には毎回参加できたが、地域課題の課題解決に向けた具体的な取り組みまでは至っていない。</p> <p>次年度では、第2層協議体について高齢者支援課と目指すべきものや活動の流れなどの共通認識を図り活動したい。単に地域住民を集めての話し合いでは地域住民が必要を感じないので、具体的には、宇土市内全校区ではなく、第8期計画のアンケート、今までの活動の中でも網田地区が閉じこもり傾向が高いこと、生活課題があると思われることから老人クラブやお元気クラブ等の集まり、地域のイベント等に足を運んで把握して、地区社協など地区に代表者へ相談していきたい。また、個別ケース会議にコーディネーターが参加することで、地域の見守りや社会資源等について協議する場を引き続き関係者へ周知していきたい。</p>

(10) 在宅医療・介護連携推進事業

<b>取組事項</b>	<b>① 在宅医療・介護連携に関する相談支援</b>
<b>内容</b>	・包括支援センター内に「在宅医療・介護連携支援センター」設置し、相談の受付、連携調整、情報共有、必要に応じて利用者や家族の要望を踏まえた医療機関や介護事業所相互の紹介を行います。
<b>実績</b>	○対応件数：延べ764件

<b>取組事項</b>	<b>② 地域住民及び介護保険事業所への普及啓発</b>
<b>内容</b>	・地域住民や介護保険事業所に対し、講演会や研修等で各種制度や現状の周知、終活支援冊子を活用した在宅療養の理解促進を行います。 ・地域住民からの出前講座の依頼があれば感染対策を徹底し普及、啓発に努めます。
<b>実績</b>	・出前講座は依頼があれば対応する体制はある。しかし新型コロナウイルスの影響で依頼が無く実績は無し。 ・地域団体やイベント時に於いて245名へ在宅医療・介護連携支援センター（窓口）の啓発実施。他、毎月の高齢者受給者証及び後期高齢者被保険者証郵送時に窓口紹介チラシを同封。 ・宇土（100枚）、網津（50枚）、走潟（20枚）地区社協へ窓口紹介チラシを郵送。

<b>取組事項</b>	<b>③ 研修・会議への参加</b>
<b>内容</b>	・研修や会議等へ参加し、情報収集を行います。 ・在宅医療・介護に係る情報を整理し、意見交換や報告の場で活用し情報発信します。
<b>実績</b>	・多職種向け研修会開催協力 ・事例検討会：打ち合わせ参加 ・第1回宇土市在宅医療・介護連携推進事業検討会参加 ・宇城圏域在宅医療・介護推進事務局会議参加 ・宇土市、包括、医師会の三者打ち合わせ参加

+

<b>取組事項</b>	<b>④ 医療・介護関係者間の情報共有の支援</b>
<b>内容</b>	・医療機関連携担当者一覧・入退院連携ガイドブックを関係機関へ周知、活用を行います。
<b>実績</b>	・ケアマネ連絡会にて連携ツールの啓発実施。 ・CM連絡会事務局担当者と宇城宇土地区歯科医師会との活動方針についてマッチング。
<b>考察</b>	・窓口に寄せられた相談は、認知症74%、癌末期のターミナル14%、ケガや病氣12%の割合で、認知症がきっかけで困っているケースがほとんどだった。今

	<p>後は相談の傾向や課題を分析し啓発に役立てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ コロナ禍での啓発は窓口のチラシ配布が主で、出前講座での事例を取り上げ、対象者と対面して啓発する機会は持てなかった。今後も新型コロナウイルスの感染状況がすぐに軽快する見込みは低く、啓発手段を模索している。地域でのオンライン環境整備や操作可能な人材の発掘が実現されると活動しやすいと思う。もしくは、啓発の対象をオンラインが操作できる世代をターゲットに活動展開をしていく等、手段については保険者と共に考えていきたい。</li><li>・ 研修や会議へは積極的に参加した。事務局と共に行う活動は、次年度はタイムスケジュールなどの段取りや役割分担が早めに出来たらと思います。</li><li>・ 医療・介護関係者間の情報共有ではCM連絡会を活用して実施した。今後もCM連絡会を通して宇城宇土地区歯科医師会Drと意見交換し、共通の連携ツール作成の提案を行いたい。</li></ul>
--	---

【資料編】

1 地域における公的取組

(1) 生計困難者レスキュー事業

年度	相談 件数	支援 件数	支援総額 (円)	年代別相談者 (人)									
				合計	10	20	30	40	50	60	70	80~	
2021 (R3)	9	5	49,038	9	0	2	0	1	1	1	2	2	
2020 (R2)	9	7(1)	54,411	9	0	1	0	1(1)	5	2	1	0	
2019 (R1)	19	16	161,184	19	0	0	2	7	3	4	1	2	
2018 (H30)	16	13	108,681	16	1	0	1	2	6	4	1	1	

※ ( ) 数値は前年度からの継続支援件数。

(2) 認知症カフェ (通称：ひまわりカフェ) 毎月第3木曜日午後2時～午後4時

年度	開催回数	利用者数	備考
2021 (R3)	—	—	新型コロナウイルス感染防止対策によりすべて中止
2020 (R2)	—	—	新型コロナウイルス感染防止対策によりすべて中止
2019 (R1)	10回	137人	台風により8月中止 新型コロナウイルス感染防止対策により3月中止
2018 (H30)	12回	175人	

2 利用者の状況

(1) たんぽぽ保育園

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	全体
2021 (R3)	12.6	20.5	23.8	20.0	28.0	27.0	131.9
2020 (R2)	12.3	22.4	19.4	24.8	27.0	21.0	127.0
2019 (R1)	8.8	18.8	22.9	25.9	19.0	25.0	120.5

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも一致しない。

(2) 五色山学童クラブ

毎月初日の年間平均利用児童数

単位：人

年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
2021 (R3)	6.4	7.0	7.4	2.0	—	—	22.8
2020 (R2)	11.0	10.2	8.3	0.6	—	—	30.0
2019 (R1)	14.8	10.3	9.8	0.5	—	—	35.3

※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため合計数と必ずしも一致しない。

## (3) 特別養護老人ホーム照古苑

## 入所者の状況

年度末現在

年度	性別 (人)			平均年齢 (歳)			平均介護度			在籍期間 (年)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2021 (R3)	18	92	110	84.1	90.8	89.7	4.3	4.3	4.3	3.2	4.7	4.4
2020 (R2)	18	93	111	84.7	91.2	89.3	4.2	4.4	4.4	3.8	4.5	4.4
2019 (R1)	18	92	110	84.6	88.9	86.8	4.1	4.2	4.2	3.5	3.8	3.6

## 平均稼働率

単位：%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	99.6	98.3	98.5	97.9	99.7	99.0	99.8	98.6	99.1	98.3	98.5	99.6	98.9
2020 (R2)	98.2	99.0	99.1	98.9	99.2	99.8	99.7	99.8	99.5	98.7	100.7	100.9	99.4
2019 (R1)	99.6	99.3	100.0	99.2	98.7	99.7	99.4	98.6	99.4	98.2	97.8	98.2	99.0

## (4) 照古苑 ひまわりホーム (地域密着型指定介護老人福祉施設)

## 入所者の状況

年度末現在

年度	性別 (人)			平均年齢 (歳)			平均介護度			在籍期間 (年)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2021 (R3)	4	25	29	95.2	90.6	91.2	3.8	4.2	4.1	2.6	3.5	3.3
2020 (R2)	5	24	29	85.2	90.1	89.2	3.6	4.2	4.1	1.5	2.9	2.7
2019 (R1)	3	26	29	93.7	89.4	89.8	3.3	4.1	4.0	1.1	2.5	2.4

## 平均稼働率

単位：%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	99.6	99.1	100.1	100.0	100.0	99.9	99.7	97.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.6
2020 (R2)	96.8	99.1	103.1	99.8	99.2	97.7	99.2	97.5	99.0	100.0	102.1	100.0	99.4
2019 (R1)	99.4	95.1	91.3	98.7	100.0	96.4	95.6	98.9	96.1	96.7	99.4	98.8	97.2

## (5) 照古苑ショートステーション (短期入所)

## 平均稼働率

単位：%

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	49.5	37.4	32.9	36.6	43.4	30.7	35.2	40.9	41.6	44.4	47.0	51.2	40.9
2020 (R2)	86.2	75.7	83.7	77.1	83.1	84.9	70.0	69.0	83.6	85.5	85.0	72.9	79.6
2019 (R1)	74.5	77.5	72.5	67.5	77.5	69.0	68.0	61.5	62.5	72.5	80.5	89.0	72.7

(6) 照古苑ひまわりホームショートステイ (短期入所)

平均稼働率

単位：％

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	81.0	74.8	69.7	75.8	84.2	88.0	76.8	80.0	81.6	88.1	83.9	85.8	80.8
2020 (R2)	66.7	74.2	62.0	82.3	82.3	70.7	65.8	81.0	76.5	81.6	85.4	80.6	75.7
2019 (R1)	67.7	77.1	67.3	73.9	76.8	65.3	66.8	62.7	74.8	79.0	89.3	88.7	74.1

(7) 照古苑デイサービスセンター (通所介護)

1日当たりの平均利用人数

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	31.4	27.7	28.2	36.2	29.3	26.9	32.6	33.3	34.6	30.8	26.9	26.9	30.4
2020 (R2)	28.2	28.6	31.8	31.2	30.8	30.6	33.2	31.2	31.2	24.7	27.0	32.2	30.1
2019 (R1)	31.2	30.5	29.4	29.3	30.0	32.4	32.3	30.4	29.8	28.2	30.9	26.1	30.0

(8) 照古苑ひまわりホームデイサービス (通所介護)

1日当たりの平均利用人数

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	22.7	20.1	19.4	21.2	18.3	17.7	21.8	21.9	22.1	23.3	19.5	20.3	20.6
2020 (R2)	14.5	15.2	16.5	16.7	17.0	16.7	22.3	22.2	21.9	20.0	18.9	20.0	18.5
2019 (R1)	17.2	17.5	18.4	19.3	17.6	17.8	17.2	18.3	18.0	16.4	15.2	13.7	17.2

(9) ウェルネス照古苑いきいき道場 (宇土市介護予防・日常生活支援総合事業)

① サービスA (月～土)

1日当たりの平均利用人数

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	7.3	6.9	6.5	6.4	6.3	6.3	6.9	7.6	7.5	6.8	5.8	6.3	6.7
2020 (R2)	5.0	4.9	6.8	7.0	5.9	6.5	7.2	7.8	7.3	6.3	6.4	7.3	6.5
2019 (R1)	8.6	8.3	8.2	7.9	6.7	8.0	7.5	7.6	7.2	6.4	6.2	5.0	7.3

② サービスC (月・水・金)：令和2年度末廃止

令和2年度末廃止

1日当たりの平均利用人数

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2020 (R2)	3.1	3.2	4.1	4.1	4.2	4.5	3.8	3.2	3.2	1.6	1.0	0.0	3.0
2019 (R1)	3.1	2.7	3.4	3.3	2.2	2.2	3.3	3.6	4.3	3.5	2.8	3.5	3.2

③ 自費利用（月～土）

1日当たりの平均利用人数

単位：人

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	4.5	3.6	3.5	4.0	2.9	1.9	3.7	3.4	3.5	3.1	3.3	3.3	3.4
2020 (R2)	3.0	3.5	4.6	4.2	2.9	4.0	4.0	4.1	4.8	3.9	3.5	3.8	3.8
2019 (R1)	4.1	4.3	4.4	4.0	3.3	3.9	4.0	4.2	3.6	3.4	3.3	2.2	3.7

(10) 照古苑居宅介護支援事業所

居宅介護支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	121	113	116	122	210	214	211	202	205	203	196	207	2,121
2020 (R2)	107	107	106	105	109	112	115	116	122	120	121	126	1,366
2019 (R1)	96	100	101	97	103	102	100	101	104	104	103	102	1,213

介護予防支援費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	56
2020 (R2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	5	17
2019 (R1)	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	17

介護予防ケアマネジメント費請求件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	1	1	4	1	1	3	2	2	3	1	0	2	21
2020 (R2)	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6	8
2019 (R1)	0	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	1	9

年間事業者別利用人数

延人数

年 度	訪問介護	通所介護	通所リハ	短期入所	福祉用具	訪問看護	その他
2021 (R3)	76	129	10	30	104	13	4
2020 (R2)	38	90	9	24	70	8	12
2019 (R1)	32	90	8	22	57	9	12

※ その他は定期巡回、訪問リハ、訪問入浴等

(11) 地域包括支援センター

介護予防支援費請求件数 (包括分)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	106	102	102	108	109	113	114	114	114	115	110	108	1,315
2020 (R2)	90	91	99	102	103	109	106	108	108	103	109	110	1,238
2019 (R1)	96	97	98	95	91	91	90	90	87	81	80	82	1,078

介護予防支援費請求件数 (居宅委託分)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	52	49	49	46	48	46	46	46	49	46	42	49	568
2020 (R2)	45	49	49	50	47	47	47	50	51	48	45	53	581
2019 (R1)	63	66	67	65	62	57	61	58	48	50	52	47	696

介護予防ケアマネジメント費請求件数 (包括分)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	59	55	65	63	59	70	64	64	67	51	52	60	729
2020 (R2)	63	60	72	86	79	83	75	75	61	68	64	63	849
2019 (R1)	82	72	76	88	69	72	87	78	87	68	63	69	911

介護予防ケアマネジメント費請求件数 (居宅委託分)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
2021 (R3)	16	11	12	13	7	13	9	14	13	16	9	13	146
2020 (R2)	15	15	15	18	15	15	17	10	13	13	9	17	172
2019 (R1)	21	12	22	20	11	21	14	14	17	19	15	11	197

### 3 資金収支状況

#### (1) 法人本部拠点

年度		2021 (R1)	2020 (R2)	2019 (R3)			
拠点	事業活動収入	209,991	66,058	49,044			
	事業活動支出	1,579,132	1,250,297	1,495,725			
	施設整備収入	0	0	0			
	施設整備支出	0	0	0			
	その他活動収入	1,350,000	931,000	2,074,234			
	その他活動支出	0	0	0			
	当期資金収支差額	△19,141	△253,239	627,553			
	当期末資金収支差額	881,250	628,011	1,255,564			
サービス区分	法人本部	事業活動収入	3	8	6		
		事業活動支出	1,125,533	1,141,336	1,396,412		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	0	0	0		
		その他活動収入	1,350,000	931,000	2,074,234		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	224,470	△210,328	677,828		
		当期末資金収支差額	1,124,861	914,533	1,592,361		
	公益的取組	事業活動収入	0	0	0		
		事業活動支出	156,233	0	0		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	0	0	0		
		その他活動収入	0	0	0		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	△156,233	0	0		
		当期末資金収支差額	△156,233	△156,233	△156,233		
	生計困難者 レスキュー 事業	事業活動収入	209,988	66,050	49,038		
		事業活動支出	297,366	108,961	99,313		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	0	0	0		
		その他活動収入	0	0	0		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	△87,378	△42,911	△50,275		
		当期末資金収支差額	△87,378	△130,289	△180,564		

## (2) たんぽぽ拠点

年度		2021 (R1)	2020 (R2)	2019 (R3)			
拠点	事業活動収入	135,384,877	148,289,720	153,646,299			
	事業活動支出	133,300,565	138,675,208	144,388,004			
	施設整備収入	0	15,117,000	0			
	施設整備支出	2,046,422	25,459,637	42,121,248			
	その他活動収入	2,000,000	25,628,700	56,500,000			
	その他活動支出	5,100,000	12,032,000	28,573,234			
	当期資金収支差額	△3,062,110	12,868,575	△4,936,187			
	当期末資金収支差額	34,594,575	47,463,150	42,526,963			
サービス区分	たんぽぽ保育園	事業活動収入	126,439,283	138,957,739	144,669,567		
		事業活動支出	127,369,940	133,365,250	140,289,710		
		施設整備収入	0	15,117,000	0		
		施設整備支出	2,046,422	25,040,757	5,495,330		
		その他活動収入	2,000,000	25,628,700	30,500,000		
		その他活動支出	5,100,000	12,032,000	28,547,000		
		当期資金収支差額	△6,077,079	9,265,432	837,527		
		当期末資金収支差額	20,131,429	29,396,861	30,234,388		
	五色山学童クラブ	事業活動収入	8,945,594	9,331,981	8,976,732		
		事業活動支出	5,930,625	5,309,958	4,098,294		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	0	418,880	36,625,918		
		その他活動収入	0	0	26,000,000		
		その他活動支出	0	0	26,234		
		当期資金収支差額	3,014,969	3,603,143	△5,773,714		
当期末資金収支差額	14,463,146	18,066,289	12,292,575				

## (3) 照古苑拠点

年度		2021 (R1)	2020 (R2)	2019 (R3)			
拠点	事業活動収入	715,234,598	755,040,833	721,872,663			
	事業活動支出	656,731,369	695,319,974	719,216,180			
	施設整備収入	0	1,372,000	324,000			
	施設整備支出	33,998,880	29,434,480	33,445,062			
	その他活動収入	252,537,653	332,834,308	27,340,139			
	その他活動支出	271,972,900	354,394,906	61,934,689			
	当期資金収支差額	5,069,102	10,097,781	△65,059,129			
	当期末資金収支差額	436,612,323	446,710,104	381,650,975			
サービス区分	特別養護老人ホーム	事業活動収入	479,194,899	498,310,634	487,791,908		
		事業活動支出	435,453,827	461,242,754	475,372,848		
		施設整備収入	0	1,372,000	324,000		
		施設整備支出	31,709,698	23,582,620	28,992,712		
		その他活動収入	251,116,768	331,644,240	25,013,194		
		その他活動支出	270,972,900	353,394,906	60,934,689		
		当期資金収支差額	△7,824,758	△6,893,406	△52,171,147		
		当期末資金収支差額	255,651,233	248,757,827	196,586,680		
	ショートステーション	事業活動収入	55,222,081	64,581,457	32,416,794		
		事業活動支出	51,448,142	41,815,823	39,936,452		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	0	3,694,020	0		
		その他活動収入	887,304	0	0		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	4,661,243	19,071,614	△7,519,658		
		当期末資金収支差額	106,050,206	125,121,820	117,602,162		
	デイサービスセンター	事業活動収入	97,705,688	102,712,772	100,962,041		
		事業活動支出	87,158,191	101,323,796	103,117,325		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	1,975,682	840,840	259,600		
		その他活動収入	533,581	432,150	2,081,845		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	9,105,396	980,286	△333,039		
		当期末資金収支差額	73,443,488	74,423,774	74,090,735		

(3) 照古苑拠点つづき

年度		2021 (R1)	2020 (R2)	2019 (R3)		
サービス区分	居宅介護支援事業	事業活動収入	19,093,950	22,125,980	34,429,100	
		事業活動支出	20,013,631	23,691,607	34,416,724	
		施設整備収入	0	0	0	
		施設整備支出	313,500	1,168,500	3,965,600	
		その他活動収入	0	606,730	0	
		その他活動支出	0	0	0	
		当期資金収支差額	△1,233,181	△2,127,397	△3,953,224	
		当期末資金収支差額	7,660,957	5,533,560	1,580,336	
	地域包括支援センター	事業活動収入	64,017,980	67,309,990	66,272,820	
		事業活動支出	62,657,578	67,245,994	66,372,831	
		施設整備収入	0	0	0	
		施設整備支出	0	148,500	227,150	
		その他活動収入	0	151,188	245,100	
		その他活動支出	0	0	0	
		当期資金収支差額	1,360,402	66,684	△82,061	
		当期末資金収支差額	△5,193,561	△5,126,877	△5,208,938	
	社会福祉の増進に資する人材の育成	事業活動収入	0	0	0	
		事業活動支出	0	0	0	
		施設整備収入	0	0	0	
		施設整備支出	0	0	0	
		その他活動収入	0	0	0	
		その他活動支出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
		当期資金収支差額	△1,000,000	△1,000,000	△1,000,000	
		当期末資金収支差額	△1,000,000	△2,000,000	△3,000,000	

## (4) ひまわり拠点

年度		2021 (R1)	2020 (R2)	2019 (R3)			
拠点	事業活動収入	226,000,699	243,629,912	251,869,520			
	事業活動支出	231,887,086	234,954,761	235,707,251			
	施設整備収入	0	0	0			
	施設整備支出	3,505,320	1,999,840	3,893,400			
	その他活動収入	9,572,639	738,955	1,017,945			
	その他活動支出	100,000	311,000	630,000			
	当期資金収支差額	80,932	7,103,266	12,656,814			
	当期末資金収支差額	△67,399,733	△60,296,467	△47,639,653			
サービス区分	ひまわりホーム(特養)	事業活動収入	143,633,403	151,748,168	150,265,219		
		事業活動支出	162,123,222	166,244,423	160,782,434		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	2,628,990	1,178,980	648,400		
		その他活動収入	8,975,869	738,955	1,017,945		
		その他活動支出	100,000	311,000	630,000		
		当期資金収支差額	△12,242,940	△15,247,280	△10,777,670		
		当期末資金収支差額	△79,661,569	△94,908,849	△105,686,519		
	ショートステイ	事業活動収入	34,160,488	37,244,129	38,923,191		
		事業活動支出	29,583,454	28,142,740	28,828,292		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	175,266	235,620	0		
		その他活動収入	275,505	0	0		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	4,677,273	8,865,769	10,094,899		
		当期末資金収支差額	2,418,190	11,283,959	21,378,858		
	デイサービス	事業活動収入	48,206,808	54,637,615	62,681,110		
		事業活動支出	40,180,410	40,567,598	46,096,525		
		施設整備収入	0	0	0		
		施設整備支出	701,064	585,240	3,245,000		
		その他活動収入	321,265	0	0		
		その他活動支出	0	0	0		
		当期資金収支差額	7,646,599	13,484,777	13,339,585		
		当期末資金収支差額	9,843,646	23,328,423	36,668,008		

#### 4 積立資産の状況

##### (1) たんぼぼ拠点

単位：円

年度	保育所人件費 積立資産	保育所修繕 積立資産	保育所備品等 購入積立資産	保育所施設設備 整備積立資産	退職給付 引当資産
2021 (R3)	16,000,000	6,500,000	4,700,000	16,000,000	4,974,670
2020 (R2)	16,000,000	8,000,000	7,700,000	40,000,000	4,592,830
2019 (R1)	16,000,000	9,000,000	7,700,000	51,500,000	5,551,730

##### (2) 照古苑拠点

単位：円

年度	照古苑施設整備 積立資産	照古苑備品購入 積立資産	照古苑人材育成 確保積立資産	退職給付 引当資産	
2021 (R3)	505,157,495	3,000,000	3,000,000	49,487,456	
2020 (R2)	467,872,806	2,000,000	2,000,000	50,239,698	
2019 (R1)	445,986,900	1,000,000	1,000,000	48,720,938	

##### (3) ひまわり拠点

単位：円

年度	ひまわり備品 購入積立資産	退職給付 引当資産			
2021 (R3)	1,160,000	9,316,241			
2020 (R2)	1,060,000	8,636,110			
2019 (R1)	920,000	7,924,675			